

第10回 自動車整備技術の高度化検討会

— 議事概要 —

●議題1 アンケート調査の検証

事務局より、スキャンツールの保有状況および使用状況に関するアンケート調査の集計結果についての説明があった。なお、主に挙げた意見等は以下のとおり。

- ・機種別の保有状況は、どの程度まで集計できるか。例えば、輸入車への対応等といった詳細な集計は可能か。
→今回の集計結果は基礎的な集計であり、要望により別の切り口で集計・分析し、新たな標準仕様WGで共有するとともに今後の検討に活用する。

●議題2 汎用スキャンツールに追加する装置や機能についての課題の抽出と整理

新たな標準仕様検討WG事務局より検討状況の報告があった。なお、主に挙げた意見等は以下のとおり。

- ・ASV・パワートレイン系で新たな標準仕様の候補となる新たなシステムは、資料2（新たな標準仕様検討WG）の13ページに示している項目を想定している。ただし、例えばアイドルングストップなど、どのシステムに含めるかは車両メーカーによって異なっていることがあり、これをどう扱うかという運用面の問題がある。そういったことも含めて対象となる装置を検討していく。最終的には、ガイドラインをまとめる中で、このような運用面での課題に対応したい。
- ・アンケートで、車両メーカー仕様の機器が欲しいという要望が多く見られたが、これは汎用機でも機能的には十分であるということを整備事業者に対して丁寧に説明すれば解消されると理解してよいか。
→こういった声自体が無くなることはないだろう。汎用機が高価格になりすぎないようにするため、ニーズの高い機能をきちんと見つけて絞り込む必要がある。現時点ではニーズに対して対応が遅れていることは否めず、どこまで対応するかがこの検討会の難しさと考えている。
- ・海外での情報提供のルールについて整理されているが、ルールだけでなく、実際の運用も含めたところまで見ていく必要があるため、引き続き海外の実態を調査していく必要がある。
- ・自動車メーカーから情報が提供されていても、ツールがその機能を実装しているとは限らない。情報提供には工数がかかるため、ツールが対応するシステムの対象を見極めたうえで情報提供の範囲を決めるのが望ましい。

●議題3 新たな教育制度やカリキュラム等についての課題の抽出と整理

高度診断教育 WG 事務局より検討状況の報告があった。なお、主な意見等は以下のとおり。

- ・継続的な教育が重要。例えば、新たな資格を作る、全国で競技会を実施しメディアで取り上げてもらう、事業者の認証や格付けを行うなど、モチベーションを継続させる取組みを検討する必要があるのではないか。
- ・一級整備士への橋渡しのような形で、スキャンツールに特化した資格制度を作るとモチベーションが高まるかもしれない。一級整備士は、特に整備專業事業者において活用しがいがある人材であると考えられ、高度診断教育 WG で、一級整備士の活用の仕方も含め検討してほしい。
- ・どんなレベルの教育を求めているのかによって事業者をカテゴライズして、それぞれに対して適当な資格や必要な要件を設定すれば、費用対効果が合うのではと考える。
- ・新たな研修、資格、認証制度を導入する場合、ニーズの見極めや、既存の仕組みにどう組み込むか等の検討を行っていく必要がある。

●議題4 その他

- ・次回検討会は3月中旬頃を予定している。次回で結論を出すというよりも、来年度に向けて、現状を中間報告として取りまとめるという位置づけになると考えられる。

以上